



2026 年 1 月 6 日

各 位

会 社 名 ア ー ク ラ ン ズ 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長（COO） 佐藤 好文
 （コード番号 9 8 4 2 東証プライム）
問合せ先 取締役管理本部長 伊野 公敏
 （TEL. 0 4 8 - 6 1 0 - 0 6 4 1）

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2025 年 4 月 11 日に公表した 2026 年 2 月期（2025 年 3 月 1 日～2026 年 2 月 28 日）の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 当期連結業績予想数値の修正（2025 年 3 月 1 日～2026 年 2 月 28 日）

（単位：百万円）

	連 結 売 上 高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 連結当期純利益
前回発表予想（A）	335,000	19,300	19,000	11,600	186 円 19 銭
今回修正予想（B）	342,500	14,500	14,000	8,000	127 円 98 銭
増 減 額（B－A）	7,500	△4,800	△5,000	△3,600	
増 減 率（ % ）	2.2	△24.9	△26.3	△31.0	
（参考）前期連結実績 （2025 年 2 月期）	315,727	16,231	19,169	10,126	162 円 55 銭

2. 修正の理由

第 3 四半期累計期間の業績において、住関連（小売、卸売、不動産）については、ペッツファーストホールディングス株式会社の連結取り込みが前倒しになったこと、および小売事業におけるロピア（FC）の新規出店がプラスに影響しました。また、外食事業においても新規出店に加え、フェアメニュー・キャンペーンの実施が寄与し好調に推移しました。その結果、連結の売上高は予想を上回る見込みであります。

一方、利益面では、住関連については販促のデジタル化や物流の効率化により経費削減を図ったものの、新規出店コストのほか、人件費、水道光熱費、賃料等の各種コスト上昇圧力の影響を吸収するまでには至りませんでした。外食事業においても、主に米価の上昇により原価率が想定を上回ったことを背景に売上総利益率が低下した結果、連結の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が伸び悩みました。

第 3 四半期以降においても上記の傾向が継続し、前回発表予想を下回る見込みであることから、各項目を今回修正予想のとおり修正いたします。

以 上